

# 第15回(仮称)釜ヶ崎夜間学校

「今晩7時より」『喜望の家』一階にて—

1.8 「人夫出し」について その4

## センターが果たしている役割りは何

あのあまりにも有名な、36年8月の大暴動の後、37年7月に西成労働福祉センター(センター)ができて今年で19年目になる。

その目的を見ると次のようにうたわれている。

「この法人は、職業の不安定な者が多数居住している特定の地域における労働者の職業の安定を図るとともに、これらの者の福祉の増進に努め、もって労働者の生活の向上に資することを目的とする。」

たしかに、我々にとって労災のため替え払いなどでは、おい分助かっている面があるが、ここにうたわれている「職業の安定を計る」という面では、

何ら昔と変わっていないことは、現に青カンを強いられている仲間が多くのことから明らかである。

特に誤解を与えやすいのは、一見あ

たかもセンターが仕事の紹介をしているように見えるが、その実は、2階の飯場の紹介を除いては紹介はしていないと言ふことである。センターに言わせるとそれは、「あいたいほうしき相対方式」による、

「就労あっせん」で、「センターに届出された求人条件により、求人者と求取者が寄場内で直接話し合っして雇用の成立をはかる」ものであると言ふことになっている。

しかしこれでは全く、違法な手配師、人夫出しの排除はできない。

これこそが、一向に違法な手配師、人夫出しが減らず、ピンハネがなくならない原因の一つである。

しかし、ここで生活するしかない我々にとって、いつまでも仕方ないと思わなければならない。

センターが「日雇労働者の就労と福祉のために」をうたい文句にしている以上、我々にもセンターのあり方に口をさしはさむ権利はある。

だがその為には現在センターが果たしている役割りを知っておく必要がある。今回のテーマはその為には設けました。一人でも多くの仲間の参加を待ちます。

## 「夜間学校」 「こんごの予定」

- 1月15日 「レクレーション」
- 1月22日 「医療」
- 1月29日 「未定」
- 2月1日、8日、15日、22日

# (仮称)釜ヶ崎夜間学校コース 第14回報告テーマ「新年・抱負を語る」

## 初夢、釜解放、現実

寒くて厳しい年明けの

### 越年の青カン二百人越す

一九八一年元日の朝は、青カン者が二百人を越えていました。新しい年とはいえ、釜の現実は今後もあいかわらず厳しの中での幕あけです。しかも年末からの寒波で、毎年約三百人の行旅病死は、実感として迫ってきます。

### 仕事の心配は正月まで

正月といってもものんびりばかりしてはおれません。仕事の心配はいつもしていなければなりません。店の多くが閉まっている。せいか、人通りはいつもより少く、にぎやかさもありません。一般の家族そろってめでたさを祝いゆつたりと新年を迎えるのに比べ、何とも言えない寒く厳しい年明けです。この釜の現実を何とか少しでも変えていかな

### 現実を変える力

ければなりません。もちろん一人だけの力ではどうにもなりません。出来るだけ多くの仲間が集まり、経験を出しあい、それを積みかさねていくことで、団結し現実を変える力となるのではないのでしょうか。その場が、まさに釜ヶ崎夜間学校なのです。

### 不景気は続くが

元日の夜は「今年の抱負を語る」というテーマで開きました。クリスマスでは多くの仲間が集い楽しい時をもちました。当日は正月でもあり、残念ながらもくはありませんでした。その代り飯場まわりをしている仲間が久しぶりに釜に帰って来て顔を出してくれました。それに冬休みを利用して越冬支援に来ている学生諸君が加わり語りあいました。今年も不況はつづき、しんどいな

はいつわらざる気持です。そうなるに精神面が弱ってくる。ひとりりもんだからやけくそになり、酒やギャンブルで爆発させると、趣味をどうつことはいいとだれとおみくじのふみをあずびて幸せをと俳句を披露してくれました。

今年とケガと病気を  
せすに頑張りまじう

「みんながつくる みんなのひろば」  
（仮称）釜ヶ崎夜間学校

運営委員会準備会

釜ヶ崎・喜望の家内  
電話 06-6447-3946  
(毎週木曜日夜七時から九時の間)

